

袋川緑地サクラ管理計画（案）市民政策コメント実施結果について

- 意見募集期間 令和6年10月2日（水）～10月21日（月）
- 意見応募者 3名
- 意見総数 8件

No.	意見要旨	市の考え方
1	<p>（中長期計画について）</p> <p>中期計画と長期計画については、まだまだ具体性がないので、今回の計画とは別個で良いので具体的なイメージの湧く計画が欲しいと感じました。そのような具体的な中長期計画をどのように、どのようなスケジュールで立てていくのが示されると説得力が上がるように思います。特に中期計画と長期計画は互いの調整が必要になりそうに見えますのでスケジュールを示すことが重要だと感じました。</p> <p>長期計画は単に桜のことだけでなく、袋川土手を緑地としてどのような空間にするのか、という市民の憩いの場としての総合的な視点から検討していただきたいです。</p>	<p>今後、区間（橋間）ごとに詳細に調査し対応方針を立て、維持管理作業や整備等を実施していくこととしています。</p> <p>具体的な中長期計画の提示につきましては、調査結果を踏まえ、具体的な整備内容や、将来的にどのような空間づくりを目指すかも含めて考えてまいります。</p>
2	<p>（アンケートについて）</p> <p>危険木の場合、伐採はやむを得ないと考えますが、その説明をきちんとするためきちんとした樹木診断が必要だと思えます。</p>	<p>ご意見のとおり、樹木診断を行ったうえで、伐採の可否の判断について考えてまいります。</p>
3	<p>（世代交代、腐朽菌対策について）</p> <p>カワウソタケは心材腐朽菌ですが、活物寄生菌ではなく死物寄生菌です。ですから健全なサクラ樹体に感染することはないといえます。枯れた原因が何かを見つけることが必要です。</p> <p>コフキサルノコシカケは健全な幹に感染しますが感染ルートは幹の傷害部分からですので剪定部は少ないです。剪定部あるいは幹傷害部にきちんと殺菌剤塗布をすれば感染を予防できます。</p> <p>腐朽菌対策について、剪定しないと感染を防ぐことができるとは聞いたことがありません。腐朽菌は多くが胞子で感染しますが春から冬まで種を変えて断続的に発生します。剪定してきちんと殺菌剤を塗布しましょう。風雪害等で折損した枝の放置も危険です。</p>	<p>ご指摘いただきました箇所について、修正いたします。</p>

4	<p>(樹勢回復対策について)</p> <p>土壌が粘土質あるいは埴質で固い場合、エアレーションしても元に戻ります。土壌試孔を掘り、土質を調べてから対策方法を決定するべきです。</p>	<p>樹勢回復対策等を行う際は、その場所の状況等を十分に調査した上で、適した対策を実施していきたいと考えます。</p>
5	<p>(年間スケジュールについて)</p> <p>クビアカツヤカミキリの成虫発生は6月～9月とのことです。産卵し2週間ほどで孵化して幼虫となります。幼虫は2年間材内で生活し材を食害しますがフラスを出すのは2月から11月の間です。ですから調査は2月～11月までとなります。</p> <p>クビアカツヤカミキリについて全国の被害発生状況を見ると東京、埼玉、群馬、茨城、愛知、大阪、和歌山、三重、奈良、徳島、神奈川、兵庫、京都ですが発生場所で遺伝子解析をした結果、東京の一部を除いて遺伝子が異なるとのこと。つまり侵入経路が違うとのこと。多くは自然拡大というより人間の持ち込みが大きいようです。ですから人為によるサクラ苗木、成木の持ち込みを管理することで遠隔地への進入を防ぐことができます。もちろん最初の被害を見つけ防除することが重要です。その他の病害虫は樹木点検のなかででしょうか。病気で言えばテングス病は重要です。虫で言えばコスカシバ、モンクロシャチホコ、アメリカシロヒトリなど監視駆除は必要です。</p>	<p>虫害等への対策については、ご意見のとおり、それぞれの害虫対策に応じた時期がありますので、年間を通じた点検のなかで、監視していきたいと考えます。</p>
6	<p>(玉砂利舗装について)</p> <p>玉砂利舗装について、恐らく下層の土壌は固結化します。するにしても幅を広くしてはいけないと思います。</p>	<p>土壌を保護する観点から、玉砂利舗装はバリアフリー実現のために必要な幅にとどめることを原則と考えています。</p>

<p>7</p>	<p>(根上がり対策について)</p> <p>根を張る範囲の土壌容積を確保することは、サクラの健全な生育を支える植栽基盤を整備する上で重要です。しかし、サクラの中～浅根性は、サクラが持つ遺伝的な形質なので、地表面から露出する根系の発達を植栽基盤の整備で解消することは出来ません。</p> <p>そこで、根上がりへの対応として、根系と園路を分離するための、栈橋形式の園路を提案いたします。この形式の通路は、大山登山道で、植生を保護する目的で20年前には設置されていました。栈橋の材料や構造、耐久性や維持管理については知見があると思いますので、是非、根上がり対策の検討に加えていただきたいと思います</p>	<p>ご意見のとおり、今後の整備の中で、サクラの浅根を保護するために地面から浮かせたデッキ状の歩道を取り入れることも検討してまいります。</p>
<p>8</p>	<p>(適切な維持管理について)</p> <p>サクラの変調を見つける機会を多く確保するために、袋川緑地の管理者等による巡視や点検に加えて、市民からの情報提供を得る場を設定することを提案します。袋川緑地には、袋川に架かる橋で区切られた組織でサクラを守って来られた経緯があります。令和6年6月に行われた意見募集の回答から、袋川のサクラに関して市民の関心が高かったことから、既存の組織に加えて、一般市民からもサクラの情報を得る仕組みを作るべきだと思います。これらの情報はデータベースに集め、分別と評価を行います。潜在する危険について、緊急性や重大性の大きな評価となった情報については遅滞のない現場対応が必要ですが、現場対応の組織は鳥取市ですでに確立しているものと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、多くの人の目で見ること、サクラの変調等の発見が早くなり、市民からの情報提供を得る仕組みをつくることは有効と考えます。また、頂いた情報を参考に集まった情報のデータベース化など、効率よく情報を集約できるよう検討してまいります。</p>